

死刑制度廃止問題に関するシンポジウム

ある加害者家族の記録

～父親の死刑執行は、彼女に何をもたらしたか～



・プログラム

上映 映画「それでも私は *Though I' m His Daughter*」
(上映時間：119分)

対談 松本 麗華 × 長塚 洋 (監督)

2026年12月12日
午後1時から4時30分まで
(開場：12時30分)
弁護士会館2階 クレオABC
(千代田区霞が関1丁目1番3号弁護士会館2階)

入場無料・事前申込不要



主催 東京弁護士会 共催 日本弁護士連合会

彼女はとても脆い。
そして圧倒的に強い。どちらかではない。
どちらもある。つらいはずだ。
嗚咽が聞こえる。吐息を感じる。
でも彼女は前に進む。決して誇張ではなく、
観ながら呼吸がうまくできなくなる。
彼女がこれまで過ごした時間、現在、そして
これからを思う。多くの人に観てほしい。
多くの人は観るべきだ。

映画監督・作家

森 達也

彼女がなにをした？

お笑い芸人・ウーマンラッシュアワー

村本 大輔

ただ1人の娘として、
女性として生きたかっただろう。
仕事をして恋をして、
友達と笑い合う。
そんな当たり前の人生を奪われ、
喪失と向き合い続けるのは被害者
や被害者の家族だけではない。

ジャーナリスト・元 AERA 編集長

浜田 敬子

娘なことは、罪ですか？

ない。死刑の前に治療して事実を話
させて欲しいとの彼女の願いに識者
らも賛同し、真相を求め続けるが、
間もなく突然の死刑執行。麗華は社
会が父親の死を望んだと感じ、極度
の悲しみと絶望のうちに生きること
になる。それでも人並みの生活を営
もうとするが、定職に就くことや銀
行口座を作ることさえ拒まれる。国
は麗華に対して教団の「幹部認定」を
いまだに取り消さず、裁判所に不当
を訴えても棄却されてしまう――。

1995年3月、日本を震撼させた
地下鉄サリン事件。その首謀者の娘
として生まれた松本麗華（まつもと・
りか）は父親が逮捕された当時12歳。
以来、どこに行っても父の名、事件の
記憶、そして「お前はどうか償うのか？」
という問いがつきまどってきた。
「虫も殺すな」と説いたはずの教団の
信徒たちが起こした数々の凶行に衝
撃を受け、父親が裁判途中で言動に
異常を来したために、彼がそれら犯
罪を命じたこともまだ受け入れ切れ



社会からの絶え間ない差別や排除の中、自らの生き方を模索し続ける 6年の記録

加害者の家族が背負う罪とは何か。オウム事件を含む犯罪報道に長く身を置いてきた長塚洋監督（『望むのは死刑
ですか オウム“大執行”と私』）が考え続けた当事者たちの事件後の人生。松本麗華と出会い、その答えを求めて6年
間に渡り記録し続けた。社会が被害者の代弁者となり加害者の家族を責める。バッシングに負けずひたむきに自身
の人生を築こうともがく麗華の姿は、この世界で苦しみながら生きている人に向けた希望のメッセージとなりうるか。

それでも私 *Though I'm* *His Daughter* は

www.iamhisdaughter.net



監督・プロデューサー：長塚 洋 撮影：長塚 洋、木村 浩之 編集：竹内 由貴 整音：西島 拓哉
アニメーション：竹原 結 音楽：上畑 正和 特別協力：「それでも私は」上映委員会
配給協力：きろくびと 制作・配給：Yo-Pro 2025年 | 日本 | カラー | 119分 ©Yo-Pro

2026年12月12日（土）午後1時～4時30分
弁護士会館2階 クレオABC

—— 入場無料・事前申し込み不要 ——

問合せ先 東京弁護士会人権課 03-3581-2205